**伊達明星高等学校　三年　与謝野　晶子**

夜の帳にささめき尽きし星の今を下界の人の鬢のほつれよ

歌にきけな誰れ野の花に紅き否むおもむきあるかな春罪もつ子

髪五尺ときなば水にやはらかき少女ごころは秘めて放たじ

血ぞもゆるかさむひと夜の夢のやど春を行く人神おとしめな

椿それも梅もさなりき白かりきわが罪問はぬ色桃に見る

その子二十櫛にながるる黒髪のおごりの春のうつくしきかな

タイトル、高校名、学年、氏名（姓と名の間は一マス開ける）はＭＳゴシック、文末揃えの太字で。

道立高校の「北海道」は省略でお願いします。

堂の鐘のひくきゆふべを前髪の桃のつぼみに経たまへ君

紫にもみうらにほふみだれ篋をかくしわづらふ宵の春の神

臙脂色は誰にかたらむ血のゆらぎ春のおもひのさかりの命

紫の濃き虹説きしさかづきに映る春の子眉毛かぼそき

**登別土高等学校　二年　長塚　節**

萬葉の大嘘烏をそろそろ秀眞がやどに妻はあらなくに

ひとりすむ典鑄司あはれみ思へれば妻覓ぎけるか我が知らぬとに

商人の繭買袋かゝぶらせ棚に置かぬに妻隱しあへや

鷸の嘴かくすとにあらじ妻覓ぐとつげぬは蓋し忘れたりこそ

唐臼の底ひにつくる松の樹の妻を待たせて外にあるなゆめ

馬乘りに鞍にもたへぬ桃尻の尻据らずば妻泣くらむぞ

粘土を溲ねのすさびにかゞる手を見せて泣かすなそのはし妻を

**壮瞥藪中高等学校　一年　芥川　龍之介**

なやましく春は暮れゆく踊り子の金紗の裾に春は暮れゆく

春漏の水のひゞきかあるはまた舞姫のうつとほき鼓か

片恋のわが世さみしくヒヤシンスうすむらさきににほひそめけり

恋すればうら若ければかばかりに薔薇の香にもなみだするらむ

麦畑の萌黄天鵞絨芥子の花五月の空にそよ風のふく

五月来ぬわすれな草もわが恋も今しほのかににほひづるらむ

刈麦のにほひに雲もうす黄なる野薔薇のかげの夏の日の恋

うかれ女のうすき恋よりかきつばたうす紫に匂ひそめけむ

君をみていくとせかへしかくてまた桐の花さく日とはなりける

君とふとかよひなれにしあけくれをいくたびふみし落椿ぞも

短歌は１行空けで作品を記載してください。